

THAILAND IN 2008

Contents 目次

◆ **Map & Schedule** 4

タイ地図&日程

◆ **Essay** 6

感想文

Satoko Iguchi 井口智子 6

Hiroshi Endo 遠藤 浩 10

Daichi Okawa 大川大地 14

Megumi Kaneko 金子 愛 16

Kazuko Morita 森田宗子 19

◆ **Diary** (2008/ 8/28～ 9/11)

21

日記

◆ **Column & Photos** 58

コラム&写真



タイスタディ・ツアー2008 日程 (8/28-9/11)

| | | | | |
|----|---------|------------------------|----------------------------------|------|
| 1 | 8/28(木) | 11:45 KIX 15:35 BKK | TG623 関西空港→バンコク | SCC |
| 2 | 8/29(金) | | バンコク観光 | SCC |
| 3 | 8/30(土) | | カンチャナブリ(戦場に架ける橋) | |
| 4 | 8/31(日) | 19:20 | BJCC 礼拝 バンコク発 SED 11 19:20 | 夜行列車 |
| 5 | 9/1(月) | 7:30 | チェンマイ着 YMCA、ドイステープ、ナイトバザール | YMCA |
| 6 | 9/2(火) | | シロアムバイブルスクール、MCD | MCD |
| 7 | 9/3(水) | | MCD、パヤップ大学、CCA | MCD |
| 8 | 9/4(木) | | MCD で礼拝、チェンライに | GTI |
| 9 | 9/5(金) | | サハサスクサ、ニューライフセンター | GTI |
| 10 | 9/6(土) | | RuDLA、マム寮、暁の家、山に | 民宿 |
| 11 | 9/7(日) | | 山で礼拝、チェンライに | GTI |
| 12 | 9/8(月) | | メサロン、メサイ、タチレク、ゴールデントライアングル | GTI |
| 13 | 9/9(火) | 11:00 CEI 12:25 DMK | TG 1133 チェンライ→バンコク 午後バンコク着 自由 | SCC |
| 14 | 9/10(水) | 23:59 BKK | バンコク 自由 TG 672 | 機中泊 |
| 15 | 9/11(木) | 07:30 KIX | 朝、関西空港、着後解散 | |

注 SCC Student Christian Center(タイ・キリスト教会の施設)

BJCC Bangkok Japanese Christian Church(バンコクの日本語教会、タイ・キリスト教会第6教区所属)

シロアムバイブルスクール カレン族の神学校

MCD McGivary College of Divinity(パヤップ大学の神学部)

サハサスクサスクール 少数山岳民族のための学校

ニューライフセンター 山岳民族の少女の救済施設

RuDLA 山岳民族のための農業研修センター

暁の家 山岳民族の中学生・高校生の寮

Essay

出会いの旅 ～タイ・スタディツアーに参加し て～



井口 智子

この美しい月を、彼女らも見ているのでしょうか…

日本に帰ってから月を見ると、なぜか、タイで出会った人たちを思い出します。近いような遠いようなタイ… この地球の、この同じアジアの、「私たちは仲間なのだ」と、不思議な懐かしさと、そしてタイでの日々から時間が過ぎていくことに寂しさすら感じています。

さて、「タイは如何でしたか。」と聞かれる度に、「良かったです。また行きます。」と答えています。そのような言葉では決して伝えられないあの15日間の体験から、既にか月が過ぎようとしています。今、改めて振り返ってみると、本当に様々なことに気づかされた15日間でした。

8月28日、初めてタイに来て、バンコクの大都会に驚き、そして初めての本場タイ料理を原先生のご友人の川口さんとご一緒して、お二人の青春時代のお話を伺いながら、楽しい夕食のときをもちました。今思うと、私はそこで既に大きな刺激を受け、「考える」旅がその時から始まったような気がしています。また、いくつかの礼拝に参加させていただいたことは、その「考える」の一つとして「信仰・祈りを問う」ことにもなりました。

まず初めに、バンコクのBJCCでは、教会学校から主日礼拝、そして愛餐会にも出席し、初めて日本語キリスト教会を体験しました。ここでは、教会学校で「フット プリンツ」の歌と一緒に歌いましたが、教会学校での私の初めての話が、この「フット プリンツ」だったのです。私は手製でこれを紙芝居にしています。この旅でも、子どもたちに話をする機会があればと英訳にして持参していましたが、残念ながら披露すること

はありませんでした。それでもこの偶然がとてもうれしくて、不思議な繋がりを感じています。それから、チェンマイに移動し、最初にシロアムバイブルスクールの礼拝に出席しました。ここはカレンの子どもたちの聖書学校です。歌が得意だと聞いていましたが、本当に素敵な歌声で、言葉は通じなくてもその響きは讚美そのものでした。ここでは学生たちが礼拝の全てを準備し執り行っています。そして寮生活のため、食事の準備からその生活のほとんどが学生たち自身でされているそうです。私たちが頂いた昼食も、学生たちが料理したものでした。私と同じテーブルに着いていた学生の一人が何度も勧めてくれた料理は、まったく辛くなく意外だったのですが、その彼は辛いのが苦手ということで、思わず笑ってしまいました。また、普段は野菜中心なのが、この日は私たちのために特別に肉入りメニューになっていることを知り、申し訳ない気持ちになりながらも、その心づかいが本当にうれしかったです。大里宣教師から、多くの卒業生は自分の村に帰り教会などで奉仕をして活躍することや、また異文化の中での宣教の意味そのもののお話を伺い、宣教への溢れんばかりの優しさと力強さを感じました。次はパヤップ大学 MCD の礼拝です。毎日早朝礼拝と夕礼拝があり、二泊した私たちは4回の礼拝に出席しました。特に夕礼拝は学生だけで守られアクティビティーもあり活気的でした。また、礼拝に使われる教室では靴を脱ぐというのも印象的でした。この寮には様々な民族出身の学生たちがいますが、授業はすべて英語です。民族はそれぞれ言葉が異なるため、ここで使う英語はまさしく「平等性」の意味をもちます。この意味を原先生から教えて頂き、英語に対する感覚が変わりました。その後、チェンライに移動し、サハサクスサスクールのウィチアイ校長先生とラフ族リーダーのダイエイ氏と共に、山岳に住むカレンの村（バカ村）で一泊し村の礼拝に出席しました。その朝、村の教会に行くため部屋を出ようとした時、宿泊でお世話になった家の女性が私に身振り手振りで「カレンの民族衣装を着てみませんか」と勧めてくれました。村の人たちは教会には正装で、つまり民族衣装で出席します。私は御好意に甘えてカレン衣装をお借りしました。村の少し離れたところにある教会までの道（実際には道ではないのですが…）は、体験したことのないような泥濘でした。私は村の女性たちと手をつないで教会にたどり着いたことを、とても懐かしく思い出します。その教会は、山の中のイメージ通り素朴なのですが、赤色のカーテンやカレン伝統織物のクロス、それと、やはり民族衣装の華やかさからでしょうか、私には明るく元気な教会という印象です。礼拝での讚美歌は、ギター一本の伴奏でみんなが歌い、グループで歌い、私たちも2曲歌い、特に私が驚いたことは原先生の独唱です。私は自分の礼拝体験で、牧師が独唱を依頼されるのは初めてでした。讚美歌を大切にすることを改めて考えさせられています。

こうして、私たちは15日間に礼拝を7回も体験しました。これらの礼拝に参加して、それぞれに異なる礼拝・教会そして異なる人々、私はその根底にある「信仰」を共有できるといふ喜びに気づかされました。また、山岳民族・少数民族と呼ばれる人々の「神

と共にある生活」は、自分自身にとっても「神と共に」の問い直しになり、「祈り」の強さ、大きさについて考えさせられています。

ところで、この旅には、私には一つの思いがありました。私は学生であると同時に、日本基督教団京都教区アジア宣教活動委員会・タイプロジェクトのメンバーです。このプロジェクトは、タイ・カレン族の女性による伝統的な布製品を中心に少数山岳民族の手仕事品を販売し、その収益金を山岳民族の女性たちの支援や子供たちの奨学金としてタイに送る活動です。彼女たちが作った、やさしい風合いの製品を手に取りながら、いつか出会いたいと思っていましたので、本当に感動的でした。私たちは当然それぞれの生きている状況は異なりますが、私自身も同じ女性として、女性の自立への思いは同じです。常に私たち女性の課題でもあります。これは「連帯」であると、強く実感しました。

このように人と人との具体的な出会いは、直接に「会う」ことで目の前にいるその人と自分との関わりを問うことになり、つまり、それは自分自身を問うということになると改めて感じています。そして、この問いの答えは生きていく中で何度も変わるかもしれませんが、常に問うことのできる人でありたいです。

今夜も、月がとても美しいです。近いような遠いような、同じアジアに生きる私たち。きっと、この同じ美しい月を見ていることしょう。

タイでたくさんの準備をして迎えてくださった人たち、ソ・ジョンミン先生とイ・サンギョン牧師とスタディーツアーの仲間たち、そして、原先生、心から感謝いたします。タイで出会った全ての人たち、ありがとうございました。

Meeting with people of Thailand

Satoko Iguchi

Are they looking at this beautiful moon now?

After I came back to Japan, I remember the people I met in Thailand every time I look at the moon. Thailand is a close country, at the same time a far country. Now I have strong feeling that they are friends who live in same Asia, on the earth, and I feel sad because times have passed since I spend in Thailand.

Every time someone ask me “How was Thailand?”

I have answered “It is great ! I would like to go there again.”

I always replied so. However, words cannot express how wonderful those 15-days.

Those 15-days made me realize so many things.

On Aug.28, I came to Thailand for the first time. And I was surprised that Bangkok is a big city. On that day, we had a dinner in the restaurant of Thai-foods with Mr.Kawaguchi, a friend of Mr.Hara. That time, I heard about their youth. Looking back on that day now, I was inspired at that time, and my “thinking” trip started at that time. And I worshiped many church, I asked myself about my faith.

At BJCC in Bangkok, we attended at church school and worships.

At Chiang Mai, firstly we attended worship at Silom Bible School.

Next, we went to MCD, Payap University, where we attended worships four times.

After that, we moved to Chiang Rai, when we stayed one night at the Karen village with Mr. Wichai, the principal of Sahasurtsuka School and Mr. Daye, the leader of LAHU.

We attended worship at the Karen church.

Like this, we attended worships seven times in the fifteen days. After attending these worships, I felt happiness for being able to share “faith”. Besides, “the life with God” of ethnic people made me rethink the meaning of “with God”, and still makes me think of the strength of “pray”.

By the way, there was another purpose for me. I am a member of Thai Project, United Church of Crisis Japan, as well as being a student. This project is an activity where we sell traditional cloth products made by women of the Karen and other ethnic people. And we spend the profit to Thailand as scholarships for children and for support for women ethnic people. Each of us live in different situation, but we are same woman. I strongly feel a sense of solidarity with them. I was really happy to meet them because I always wanted to meet them someday.

This kind of face-to-face encounter makes me ask myself about the relation between me and other person through action of “meeting”. I realized the importance of question myself. Even though the answer to this question might change in my life, I would like to be a person who can question myself.

The moon is beautiful tonight. We live in the same Asia.

I think they are looking at the same moon.

I would like to show my deepest gratitude to everyone who was kindness in the

study tour, and I am very thankful to everyone I met in Thailand.

感謝と振り返り

遠藤 浩



最初に、私たちを受け入れ、豊かなホスピタリティで歓迎してくださり、お世話くださったすべての方々に、感謝の意を表します。ひょっとしたら私たちは受けることのみ多く、それに比べ私たちから皆さんへ贈ることが出来たものは、とても少なかったかも知れません。その差を、この報告書が少しでも埋めることができれば幸いです。またタイでの出会いと学びとを日本でいろんな人に伝えることも、その差を埋めることになると思っています。

わずか2週間ほどのあいだに、まとめようもないくらいさまざまなことが目の前に展開されてゆき、さまざまな人や事柄に接し、出会いや学びを経験することができました。さらにそれらの一つひとつがそれぞれに、私たちへの多面的な問いかけを内包するものでした。

タイに住む皆さんとの出会いを通して学んだことは、大きく4つあります。

ひとつめは、国際交流の大切さです。国や文化が違っていても変わらないものや、逆に大きく違うものの発見は、お互いの心を開き、広げてくれたと思います。何より国や民族をこえてお互いが固有名詞で心をつなげ合うことそのものが、お互いの人生を豊かにすると感じました。

ふたつめは、開発と援助のあり方です。先進国が途上国を経済的に支援すること自体は間違いではありませんが、支援する側が上、される方は下、という関係の意識にもとづく上から下への一方的支援は、お互いをスポイルしてきました。双方が「対等に」よく知恵を出し合い、学び合って一緒に考えてゆかなければならないことを、改めて確認しました。

みっつめは、キリスト教宣教のあり方です。宣教のフィールドは実に多様です。それは教勢拡大ということだけを意味しません。たとえばバンコクで泊めていただいた Students Christian Center はタイ・キリスト教会という合同教会のもので、この合同教会は病院や学校など、多様な地域の求めへの応答としての宣教拠点として有しておられました。チェンマイで宿泊したチェンマイ YMCA は宗教を問わない教育活動の拠点であり、クリスチャンのみならず他宗教の人たちも多く働いておられます。チェンライで訪問させていただいた少数山岳民族の子どもたちの学校・サハサスクサはバプテスト教会により建てられ、それぞれの民族の文化を大切にしながら教育を行っておられました。共に生き

るなかで人の根源的ニーズに応えていくことが宣教であり、イエスのあとに従う道であり、それぞれの働きは神の国のビジョンを部分的にはあるが、あらわしているように感じました。そしてそれぞれが部分であるがゆえに、その道すじは多様だと教えられました。

よつつめは、ではこの根源的ニーズとはどういうものか？ということです。飲料水や食物、住居など最低限の生命維持のためのニーズはひとまず満たされていると仮定した上で、ではほんとうの豊かさ、幸せのための条件とは何だろうか？少なくとも私は、それが経済的な発展だけでは決まらないと考えます。対等な人間としての認め合いがあること、そのような人のつながりが豊かにあること、つながりにもとづく参加型コミュニティーがあること、異なる文化の認め合いがあること、そこで人が自分の目標と可能性を見出していること、などが、豊かさや幸せのもっとも大切な尺度になるのではないのでしょうか。この観点から、北と南とは今後もっともっと「対等に」学び合う必要があると感じましたし、国際交流も開発援助もキリスト教宣教も、それぞれの人間のおかれている具体的状況のなかで、上に述べたような人間の根源的ニーズを問いながら実践されてゆく必要を感じました。

最後に、このツアーを企画実施してくださり、20 数年間の思いと体験にもとづく生きた知識を惜しみなく私たちに注いでくださった（アチャン）原誠先生に、心からのお礼を申し述べたいと思います。ありがとうございました。

追伸：ツアーに関わってくださったすべての方に、恵みと祝福がありますように。

Appreciations and Reviews

Hiroshi Endo

First of all, I would like to express my heartfelt appreciations for all who received us, made us welcome with great hospitality, and looked after us when this occasion of 'Thai Study Tour 2008'. We, maybe, might have much more gifts so good from you all, rather than what we contributed so less. I hope that these reports are going to fill those gaps even a little. And also, I am expecting it will be able to fill also little to share our experiences in Thailand with our fellows in Japan.

The Study Tour was a great opportunity for us to have many studies, experiences, and encounters during few weeks in Thailand. A lot of views and situations under

the various contexts touched us while we could not settle down. Everything there from first to last made us faced to multi-lateral questions.

Now I would like to share such questions and awareness of myself, from 4 viewpoints on outline like follows, which I had studied from my experiencing in Thailand;

1; I was made recognized again how important an inter-action beyond nationality and race is. Discovering something same or similar and oppositely something very different between yours and ours, had made the minds of both opened and spread. Most of all, I thought the facts of just touching each other as crossing over nationality, race, and cultural background of each, lead our lives to be good and right.

2; I think there must have been a certain issue of 'Development and Over Seas Assistance' in the reality of Asia. Although I don't want to deny the necessity of economical assistances from 'the developed countries' to 'the developing countries', however many cases of unilateral assistance from upper to lower, with both sides' thoughts of 'the North as upper', and 'the South as lower', have ever and very often spoiled both. So I was pointed through my studies by experiencing in my trip, that today we're certainly standing on a critical point, then that from here we both should start to share the thoughts and the studies from each of contexts. That means we should be considerable together about this issue, on a certain concept and reality of 'equality', even between 'the North' and 'the South'.

3; I was moved by the spread wings of Christian Mission in Thailand. I supposed the mission fields are so multi-angled. That means the mission is not only to increase the number of Christians. We stayed at The Students Christian Center in Bangkok which owned by The Thai Christian Church as united church. This united church is administrating various facilities for their mission, such as hospital, school, and so on which have been taking responsibilities for multiple needs of their communities. The Chiangmai YMCA where we stayed in Chiangmai is one of responsible association for many communities, contributing various educational activities without dependency on their participant's religious backgrounds. And also their works have been going on with many paid workers and volunteer workers with various backgrounds of religion. As we were in Chiangrai, we visited Sahasartsuksa

School which were founded by Baptist Church for the children from backgrounds of hill tribes as minority, and we tried some of inter-cultural programs with the children there. That school has one particular concept to promote their education which was concerned with racial identity of each child.

Totally I was suggested there that the Mission of God leads us to be responsible for human basic needs, throughout our lives with neighbor. I believe that's the way to follow Jesus. And the visions of 'Kingdom of God' preached by Jesus, show a part of itself at each working, I felt. For every working is just a part, I think Christian Mission has multi-formed outputs.

4; As the next, for 2 weeks in Thailand I had often asked to myself the question like "what are the human basic needs?" At least I believed that our wealth and happiness depend on not only economical advancing, in truth. So then depend on what? ---So far as I am concerned for wealth and happiness in truth, we need face to face understanding with neighbor based on equality, we need networks and participating-communities based on such human relations, and we need multi-cultural understanding, and still more, we need to be a person who is handling his/her own purpose and possibility. Those are mostly necessary for us all as human basic needs in my thoughts when reviewing our trip in Thailand.

All through the study tour I had been suggested every cross cultural action, every overseas-assistance, and every missionary action around the human situation on each contextual reality would have to be connected with our concern and consideration for such human basic needs.

At the end of this report, I would like to express my gratitude from deep inside my heart to Professor (Achan) Hara, for all of his efforts to produce our trip and to share his living knowledge and wisdom which came from over 20 years experiences and spirit of himself. Very much thankful for everything.

P.S. May God bless you all who related 'Thai Study Tour 2008'!

共に生きタイ！

大川 大地



「タイに行って自分を変えたい、タイで素晴らしい経験をしたい。」そう思って私は今回のスタディーツアーに参加しました。実際に、スタディーツアーでの14日間は上手に言葉にできないほど、濃ゆい、とっってもとっっても素敵な、幸せな体験でした。

しかし、それでは不十分なのだ、と原先生はやさしく私たちに教えて下さいました。『私たちはお金があるから行こうと思えばいつでもタイに行ける。しかし、タイの人たちはいつでも日本に来れるわけではない。そういう「イコール」ではない状況、その中で私たちの一方的な出会い。それは、経験の「シェア」ではなく、経験の「一方的収奪」ではないか？』原先生から、その言葉を聞いた時、胸が震えたのを覚えています。

私は、同志社大学神学部に入學する前は、山口県の岩国市というところに住んでいました。岩国市には、とっっても巨大な海兵隊の米軍基地があります。私の父が牧師をしている岩国教会は、米軍に苦しめられている人たちと「共に生きよう」とし、米軍基地の「暴力」と必死に闘っている教会です。米軍基地の街のあまりに悲惨な現状を知るために、全国からたくさんの人たちが岩国を、岩国教会を訪れてくれました。しかし、その中には、「頑張ってください」とだけ言って、帰っていく人たちもいます。岩国に住んでいた時、そのような人たちにとっっても疑問を感じたのを覚えています。『頑張ってください、岩国の人たちは、岩国教会は必死で頑張っているのに・・・。』もちろん、私に人を非難するような資格などありませんし、他の人の在り方を問うているつもりもありません。しかし、あえて言うなら、それは基地の街の現実に住む者としての「生理的な反発」だったのではないかと思います。

しかし、タイでの14日間、私はどうだったのでしょうか。たくさんの方々の生活の場所を訪れ、今まで知らなかったタイの現実に触れ、タイで生きる人たちをこの目で見て、その14日間、私はどのように生きたのでしょうか。私はタイで出会った友人たちに「頑張ってください」としか言えませんでした。少数山岳民族で、親の収入が足りず、寮で毎日を生きながら勉強している子ども達に「頑張ってください」としか言えませんでした。いや、自分の理解の範囲を超えた「非日常」に、一大都会のバンコク、きらびやかな寺、バンコクの日本語だらけの歓楽街、めっちゃ辛い料理、めっちゃうまかった饅頭とカレーラーメン、カレン族のバカ村へ向かう険しい山道、タイで出会った友人や子ども達の笑顔、に一単純に

感動したり、理解できず悩んだり、いろいろ考えたり、で自分の思いを言葉に出来ず、「頑張って」すら言えない自分もいました。

私は日本に帰ってきて、タイで出会ったすべての人たちから、そして何よりも神から、あたたかく問われているのだと思っています。「それでは、あなたは、日本でどのように生きるのか？」と。私は、タイでの出会いを「経験の一方的収奪」には絶対にしたくありません。タイで出会った友人たちとイコールな関係でありたいのです。ですから、これからは、その問いかけの答えを一生懸命探しながら生きて行こう、と思います。次にタイの友人たちと会う時には、自身を持って、自分の主体をかけて、「頑張って」ではなく、「一緒に生きよう！」と言いたいのです。タイの友人たちと、子どもたちと、出会ったすべての人たちと、そして神によっていつでもつながっている人たちと、共に「出会い」を喜び合い、「シェア」するために、私は、「共に生きる生き方」を探しながら生きていきます。

そのように思えるようになれた第一歩が、今回のスタディーツアーでのすべての「出会い」だったのです。本当に、たくさんの「出会い」にラブル！！（カレン語で「ありがとう」！）

Live Together!

Daichi Okawa

“I want to change myself in Thailand.” This is the main reason why I have joined this Study Tour. Actually, 14 days in Thailand, I experienced many many wonderful, happy things.

But, how did I live in Thailand? I only Said “Work hard to live in Thailand” to my Thailand’s friends. And, sometimes I said nothings to my Thailand’s friends. Because, all experience in Thailand is too “Big”, “Heavy”, and too “Wonderful” for me.

But, I want to live together, my friend. So I will live as looking for “Way of living together” in Japan. Next time when I see Thailand’s Friend again, I won’t say “Work hard to live in Thailand”, but I want to say “My friend, Live together in Thailand and Japan, and in God!”

Now I think that this time 14 days Study Tour and all people, friend who I met in Thailand gave me so wonderful gifts. Those are “meetings” and “smiles”. I thank for all and so many “meetings” and “smiles” in Thailand.

Thailand ～ これまでの私を どう変える？

金子 愛



日本を出たのは2度目のことだ。オーストラリアでのホームステイは、小学生だった私にとって純粋にあこがれの文化生活だった。今回のタイ旅行はそうはいかなかった。

なにしろこのタイ・スタディーツアーには最初ほとんどどんな知識も目標も持っていなかったし、参加はむしろ必須科目の履修という勢いだった。しかしとても楽しみだった。そして今2週間の旅を終えて感じることは、どんな場面にも、まるでテレビを通して外国を観ているような客観的な自分がいたことだ。たくさんの人と出会い、雑誌や本でしか見たことのない場所に立ったのは、夢なんかじゃない生身の私自身だったのに。

国が異なれば環境が違う。環境が異なれば文化が違う。文化が異なればものの見方や考え方が違ってくる。外国で生活するということは、そんな違いを実生活の中で体感するということだ。そして大切なのは、体験したことから何を手に入れ何を捨て去りたいかを知り、どんな風に自分が変わるのか、変わることができるのかを探ることだろう。私は何が変わっただろう。何を变えたいと感じたのだろう。

生活環境の違い。なんと言ってもこれは大きかった。予想を超えて大都会だったバンコクも、視線を変えると見えてくる極端な差異が平然と同居する街だった。見上げればビルの群れ、目線を下げれば貧しさが目に飛び込んできた。平均的な平和さや経済力の中にある日本ではまず目にすることのない光景が、バンコクという街の色々なところにあった。屋台で必死に商売する人。地面に座って楽器を使いお金を手に入れる人たち。船で移動した岸边に見た今にも倒れそうな柱をもった家々。しかしその移動先で目にした仏教寺院の異様なまでのきらびやかさが、それらとはあまりにも対比的すぎた。

こんな環境の違いを、この旅の間ずっと私は比較することで理解しようとしていた。タイと日本とを横に並べて比べてみる、そんなやり方でその国の文化を本当に知ることなどできないはずなのに。そして正直、比べる必要など全くなかったのに。比べること

を止めた時、きっと素直に土地の空気が伝わってくるのだろうと今は思う。タイの環境になじみ変えられてしまうことを、ひょっとして心のどこかで拒んでいたのだろうか。

そんな中でもパヤップ大学での経験や人との出会いは忘れられない思い出となった。特に深いインパクトを与えられたのが礼拝だった。いつしか心の中で”タイスタイル・サービス”と勝手に名付けた私は、生まれて初めて礼拝そのものを楽しんでいた。荘厳でイカツイのが礼拝、礼拝とは堅苦しいものと思い込んでいたそれまでの私にとって、メッセージの伝え方も賛美の方法も驚くほど新鮮で素敵だった。メッセージを語る人の間いかけに、皆が声を挙げて応える。礼拝に参加している！と実感した。礼拝だけでなくその後の交流会での賛美も力強く、心の底から湧き出る証のようだった。まるで賛美する自分の姿に酔っているようにも見えたが、それでも賛美に酔えること自体が羨ましかった。感情や感動を表現する手段には民族性の違いが表れやすいのだろうが、この礼拝の姿にはそれだけではない何かがあるような気がした。やっぱり私はタイスタイル・サービスの方が好きかな……。いずれにせよ、国は違っても同じ道を歩くクリスチャンに出会えたことは、これから私が選んでいく道に影響がないとは思えない。

パヤップ大学の寮生活もまた貴重な体験となった。同じ神学生として考えさせられたことは、「いま生きているその足元をみつめることの大切さ」のような気がする。19歳の誕生日をそんな場所で迎えることができた喜びと感慨深さも手伝っていたのか、いつか留学生としてパヤップ大学の寮生になりたいとさえ思った。素直でおおらかな人たちに囲まれた寮生活だった。

旅は北に移りさらに大きな生活様式の違いを経験したが、そこでは意外にも自分の順応力はキャパが広い！と思ってしまった。私ってどんな所でもやっていけるかもと勘違いしそうなほど、日本での日常とは大きな隔たりがある生活もすんなり気楽にこなしていた。だがそれも、失礼な表現かもしれないがもっと貧しく過酷なものだと想像していた山岳民族の生活が、現代はずいぶん変わってきているためでもあったと思う。しかしそれもある意味私の側の、ほんの少しの滞在だという心の余裕とお客さんの客観視が生んだ順応力だったんじゃないかと思いつけている。山岳でのトイレの現状や食生活を本当に心から受け止めていたのかという少し違う気がする。自国で手に入れている文化が、訪れた国の文化・環境より優れているなどと勘違いすることが一番やっかいなんだと知らされる場面にも遭遇した。そんな反省も感じながら、それにしても自然は素晴らしかったし、何より村の人たちの歓迎が素直に嬉しかった。その理由は、“家族の一員”として迎えられているような安心感と居心地の良さだったと思う。

自分を変えるって具体的にどうすることだろう。旅先での感動が、祖国での日常に埋もれて単なる思い出に替わるだけなら、本当のスタディツアーじゃない気がする。もしも何ひとつ変われなかったのなら、とても悔しい。まだまだ知らなければ！見て聞いて実感しなければ！と痛感した旅だった。ミャンマー以外にはぜひもう一度行ってみたい。最後に、この旅を備えてくださった原誠先生にはほんとうに心から感謝です！

Thailand – Can I change myself after this tour?

Megumi Kaneko

This travel was the second time I had been abroad. The first trip gave me the experiences as the urban life in Australia when I was a student of elementary school. The study tour for Thailand in this time was obviously different from that one.

Though I didn't know anything about Thailand and had no certain aim of studying at first, I had looked forward to this study tour. After the trip I found myself that I had always had an objective viewpoint at every scene in that country. I think the tour has the power of changing one's view of life. Could I change myself through the days of Thailand? What did I want to change in my daily lives?

The biggest difference in circumstances between Thailand and Japan was the life styles. Bangkok which was the big city over my imagination had two faces as the rich and the poor. On the contrary Buddhist Temples were huge and glitter.

The strongest impact for me was the style of the service in Payap University. The ways of hymning for God and conveying messages from God was the best I ever had. I'm convinced that these experiences can influence my life now on.

The other remembrance is the seeing people at the mountain. I was touched by their kind words and deed and felt at home. I'm much obliged to them!

It is the point of this study tour that I'll make use the learning of Thailand. The more I'll study the foreign culture, the more my life can be abundant.

つながり

森田 宗子



結婚を機に京都に戻ってきて自分の時間が持てるようになり、人生の歩み方を模索していた頃に偶然原先生からタイ・スタディー・ツアーについてのお話を伺うことができた。お話を聞いた瞬間、「訪れたことのないタイで一般観光と違う体験をすることによって、これから生きていく上での何かのきっかけを得られるかもしれない」と思い、すぐに参加することを決意した。

ツアー前のタイの印象は事前学習をしたとはいえ、やはり近くて遠いアジア感が拭えず、異国を訪問するぞ！と知らずのうちに意気込んでいた。確かに、言語も習慣も異なっていて驚くことも多かったが、タイで毎日のように出会う歴史・人・文化などの新しい出会いは、タイ特有の点ではなく日本とつながっている線に感じられ、決して全てが日本から遠く離れたものではないことを実感させられた。ひとつは、カンチャナブリの泰緬鉄道において。歴史としての鉄道は知っていたが、現在もタイ国内で利用されているのを実際列車に乗り体験すると過去の歴史ではなく生きた歴史として自分の中に入ってきた。一面からみる歴史ではなくもう一面、つまり両面から歴史をみることによって、多くの人の歴史があってこそ今の私たちへとつながっていることを感じさせられた。ふたつ目は、礼拝において。今回それぞれの箇所での礼拝に参加させていただいたのだが、その度に信仰を通じての人と人との人種・思考を越えた同士のつながりを感じ、感動した。私はクリスチャンではないので、皆さんとのつながりは弱かったかもしれないが、一緒にその場に居合わせてもらい人とのつながりの温かさを感じさせてもらったことに感謝したい。

毎日多くの刺激を受けたせいか、ツアーを終えた今でも未だにツアー参加目的の何を得て何が変わったかということ具体的に表現することはできない。ただ、タイに行く前に感じていた異国や知らないものへの恐れなどで緊張していた私は、日々タイとのつながりを感じるうちにいつの間にか安心感へと変化し、リラックスして毎日を過ごせるようになっていた。この変化は、私の物事への捉え方を変えてくれたと思う。以前なら興味がないことはそのままにして終わっていたが、その終わらせてしまう行為は自分自身でカベをつくり生活しづらいようにしていることを気付かせてくれた。今回学んだ全ての事柄はつながっていることを念頭に日々過ごしてみるともっと楽に生きていけるのかなと思う。そのような心持ちで帰国後実践しているのだが、この年になってこんな事も知らないのかと自分でもびっくりすることが多く恥ずかしい。しかし、今から少しでも知って様々なこととつながっていきたいと思う。そうすれば、おのずとこれから進

んでいく道がみえてくるのではないかと思う。自分の道が見えてこそ、タイ及び国を越えた人々と生きていく道がみえてくるのではないかと思う。

最後になりましたが、大きなつながりを与えてくれたタイの全てに、そして、今回のスタディ・ツアーにイレギュラーな私の参加を受け入れてくださった原先生をはじめ、メンバーの皆さん、タイで出会えた皆さん、家族に感謝します。ありがとうございました。

Lead to all

Kazuko Morita

When I came back to Kyoto taking advantage of marriage. I was able to hear a story from Mr. Hara about study tour of Thailand. At the moment I heard, I thought that “ I might be provided in I had not visit it to Thailand by some kind of opportunities on living by what I experienced from now on different from public sightseeing” and decided what I participated in immediately.

At first, the stay in Thailand was often surprised because the language and the custom were different. However, through the encounters of new every day such as the history, the person, the culture, I was able to feel that I was connected with Japan as well as Thailand.

While I felt a connection with Thailand every day, a foreign country or the fear to the thing which I did not know that I felt before departure changed into security all too soon and I was relaxed and got possible to spend every day. I think that this change changed how to catch to thing me. I think that I may learn most when I spend it every day while thinking that all which I learned this time is connected. If I do so it, I think that I may see a way faster from now on naturally. I want to find Thailand and the way living with people across the country while looking at one's way.

Finally I thank for Thailand all which gave a big connection. And I thank Mr. Hara, the members of the study tour, people we met in Thailand, from bottom of my heart. Thank you very much.

Diary

2008年 8月28日(木) いぐちさとこ

サワディ K ♪

6時間ほどの空の旅を終えて、到着です！

「大きい、大きい…どこまで続くの？」

とにかく大きくて、人が多いタイ国際空港！ 原先生にはぐれないようにと、ワクワク気分で歩く…歩く… いよいよ、旅の開始！！



原先生の友人、川口さんのお迎えで一同 SCC へ。車中から見る初めてのバンコクは大都会で、やはり自分の目で見る実感に早くも感動です。

そして、その都会の中にある SCC は、門を入ると南国らしい緑がいっぱい…ステキ♪ お部屋にはクーラー、洋式トイレ…快適そうでステキ♪



タイに来ての最初の夕食です！

原先生：「おまかせします。」

川口さん：「じゃ、いつものあの店にしましょう！」

いつもの？ ムム…これで通じるのかあ。原先生の長い関わりが伝わる会話を耳にしながら、またもワクワク気分で、一同「いつものあの店」へ。

SCC から徒歩で着くそのお店は、何だかほっとするようなお店です。

しかし、辛い！でも、美味しい！ 本場のタイ料理は最高！！

あー、辛口大丈夫で良かったあ。私は大満足♪

「愛ちゃん、がんばれ！」これから毎日辛いぞ～!(^^)!

原先生と川口さんのそれぞれの熱～い青春時代のお話を聞かせていただきながら、熱～い第1日目が終わろうとしています。

今回のこの旅が主の御心の旅となりますように☆



8月28日（木） 大川大地（キース）

夕方にバンコクに到着。
初の海外旅行です。とう
とう来てしまった。
しかし、実感はまだあり
ません。

バンコクは、予想を遙か
に越えた、大きな大きな
大都会で、摩天楼も凄ま
じく、人もメチャメチャ
たくさんいます。

でも、日本より遙かに大
きい（と感じました）大都会なのですが、どこか日本に似ているなあ！と、思いました。
やはり、実感は、まだないっす。



夜、アチャーン（原先生）とアチャーンの友人の川口さん
に連れられて、

『いつものあの店』で夕食。

思っていたよりも、とてつもなく辛いタイ料理…。

ちょっと、タイ料理をナメてました。

うー太（愛ちゃん）、がんばれ…！ オレも、この料理に
は負けてしまうかも。

そして、そのうち、タイ
料理に負け

ないくらいに熱い、アチャーンの『ストー
リー』を聞きました。

アチャーンが、どうして、どのようにして、
アジアに関わるようになったのか、という
熱いストーリーを聞きながら、

あ、自分はどうとう、アジア、そしてタイに
来たのだ！！

と、思いました。





8月29日（金） 遠藤

7時に朝食。朝からタイフーズ。でもコーヒー好きの自分には、インスタントでもコーヒーのうまさがひとしお。ちょっとゆっくりしてから9時半に出発。スカイトレインでサバーンタクシン駅へ。自動改札。客車内の液晶ビジョンで景色を感じる。河畔に出ると、高層ビルが立ち並んでいる。濁っている



る。水上バスでチャオプラヤー川を遡上してエメラルド寺院へ。キンキラキンの寺院、仏像などを見ているとこれが同じ仏教なの？という気がするけれど、その国や民族固有の文化と結びついて初めて、宗教はそこの人た

ちのものになるのかも知れない、と思ったりもする。

エメラルド寺院の本尊は、かつてタイの属国扱いだった現ラオス領ビエンチャン朝の宝物を、侵攻したタイ軍が略奪してきたものだと事前に学んでいた。が、当地で配布されたパンフレットには、さらにその





前史が説明されており、そこではエメラルド仏は、もともとタイ側が所有していたものだと書かれていた。ナショナル・ヒストリーとは、えてしてこういうものなのかも。あるいはこれが史実？分からない。

再び水上バスに乗って川を下り、タマサート大学のキャンパスに足を踏み入れる。原先生より、70年代にこの大学を舞台に起こった学生運動と軍隊との衝突の悲劇を伺いつつ、現在は平和な雰囲気そのものの学食で昼食。タイラーメンがうまかった。コーヒー一杯 20 バーツ。安い！



また船で少し下って暁の寺院も見学。ハシゴみたいな階段で上がる塔の急こう配を見た瞬間、こりゃ高所恐怖症の自分にはムリとあっさり諦め、土産物屋で携帯灰皿を買い求めて煙草を一服。さらに川を下り、リバーシティという大型アンティークショップへ。商品クオリティは高いが値段も高い。4階建ての広い店を、ジャスト・ルッキングでさっと廻って終わり。



路線バスに揺られてサイアムスクエアへ。この界隈はバンコクでももっとも繁華な一画で、巨大ショッピングモールや映画館、レストランや飲み屋などがひしめく。ショッピングモールでは、あまりの人の多さと彼らの消費へのエネルギーに圧倒されて買い物する意欲をなくす。で自由行動の1時間余り、ベーカリーカフェでお喋りして過ごす。金子さんは椅子で爆睡。初の東南アジア、

歩きまわったし疲れもするわな。

晩飯は有名な COCA でタイしゃぶをいただく。バンコクに住む小田さんとトンさんが同席され、英語日本語のちゃんぽんで話しがはずんだ。

今日は「オモテ観光」ながら公共交通機関を使い倒し、タマサート大の由来を聞いたりバンコク在住の方との交流もあったり、ただの観光とはひと味がう「深さ」も垣間見た一日だった。明日からがますます楽しみ也。

8月29日（金） 金子



2日目の朝は、辛いタイ料理で Start!!

だいぶ辛さに慣れ（もしくは口がマヒ）ました (*^_^*)

スカイトレインに乗りこみサバーンタクシン駅へ・・・。

初めて見るチャオプラヤー川は大きく、流れは速く・・・茶色かった。

エメラルド寺院は観光客がとてつもなく多く、その勢いで押されたかのごとくエメラルド寺院はゴールドに輝いてました。

チャオプラヤー川の脇には、今にも折れそうな水中の柱の上で年季(?)のある家に住んでる人びとを見て、エメラルド寺院を見ると、正直あまり感銘づけられませんでした。



バンコクの大都会について、とてつもなく立派なショッピングモールでの自由時間は思考回路が停止寸前だった私には、ちょうどいい睡眠時間となりました・・・

行く先々に屋台があり、客寄せに必死です。

そんな人たちは私たちを見るなり「みずー」だとか日本語が発せられ、バンコクでも旅行者ばかり・・・はたして私は今、なに国に・・・あまり“タイ”を実感できずにいました。





6時半になり、タイ風しゃぶしゃぶ店 COCA へ。

食事の席ではスタディーツアーの6人のメンバーに加え、ODAさんとトーン(?)さんが一緒に！

この時間はとても有意義で原先生の表情を見てると「人との出会いの本当の喜び」を教えられた気持ちでした。



一期一会でその瞬間を大切にせねば・・・

と思いつつベッドに入り2秒で爆睡。で幕を閉じました。ZZZ

8月30日(土) もりた

昨日同様 A.M.7:00 朝食。→20分後、チャーターしていただいた車にて「カンチャナブリー」へ出発♪ 車中何故か大量な虫発生のため、皆「虫ハンター」となる…。私も何匹退治したことか…。

一段落後、約2時間の道中の為、皆爆睡。その後、カンチャナブリーのクウェー川付



近に到着。ここは、かの有名な「戦場にかける橋」(私はチャラチャチャ〜♪の音楽が頭から離れなかった)のモデルとなっているので、大勢の観光客がいて驚いた。もうひとつこの橋で驚いたのは皆が橋を歩いて見学している間も普通に



電車が通っていること。(待機場所が線路のワキにあり)この橋から少し離れた所に鉄道建設の際、命を落とした人々の慰霊塔があるのだが、この塔が建てられた



のは戦時中(S19)であることを初めて知り、日本軍の違った一面を学んだ。

定時より1時間遅れの列車に乗りナムトクへ。乗車中、バンコクでは見られないタイの山々やのどかな風景(さとうきびが沢山あり、まるで沖縄のよう)に心を癒された2時間でした。



ナムトクで昼食後、再度車にてカンチャナブリー市内のJEATH 戦争博物館と共同墓地へ。この2箇所の見学で私は自分の知識のなさを強く感じさせられました。先程のどかなあ、平和だなあとのほほんとした気分で乗車した列車は様々な国の様々な人々の犠牲によって成り立ち今へと続いているという歴史の重さを感じ





じました。

この年になって慰霊塔の存在や泰緬鉄道の歴史を知らなかったりと恥ずかしさを色々感じた 1 日でしたが、逆にこの 1 日があったことでその部分を知れたので、私にとって大きな 1 日でした。こんな chance を与えてくれたことに感謝。

☆もりたの first experience①☆

ついに会いました「タイ式トイレ」(-0-)／

8 月 30 日(土) SATOKO

GOODNIGHT SWEETHEART.
ALL MY PRAYERS ARE FOR YOU

カンチャナブリーに来て…

☆上の言葉は、連合軍共同墓地より
今日は泰緬鉄道に乗り「日本軍慰霊塔」



て、そして、小さな家族写真が木製の写真立てに入れて売られていた。

様々な思いが私の心の中であらうごめいている。

「歴史の事実を見た」 今日はそのような一日であった。



「JEATH 戦争博物館」

そして、「共同墓地」へと見学をした。実際に鉄道に乗ると今は人々の足となり、観光客の足となり…何とも言えない思いがしてくる。

駅の売店で「えっ」という物を見つけてしまった。

戦争当時と思われる、日本人の古く



8月31日（日） 大川大地（キース）

タイに来て、はじめての主日、日曜日です。
無事に日曜をむかえられたことに感謝。アーメン。

バンコク日本語教会で礼拝。
アチャーンの説教はあいかわらず熱かったッス。
えんどうさんの CS メッセージも良かった〜！！
ぜひとも、今度、甲南教会の CS メッセージでパクらせて
いただきたい、ハイ。



夜行列車でバンコク→チェンマイのはずが・・・・・・
なんと、ストライキで夜行列車、動かず！！・・・・・・。

「いやあ、いろいろあるねえ」と、アチャーンのあり
がたきお言葉。

駅でビールを飲むアチャーンの顔が、とても
幸せそうでした。

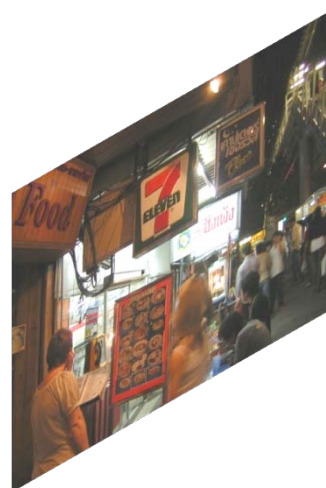
仕方がないので、夜行バスで行くことに。
さて、次はどんなハプニングが一行を待ち
うけるのかっ！？



乞うご期待！！ 次回に続く→→

8月31日（日） HIROSHI

前夜、CS 説教準備で絵をいっぱい描いたが、クレパス
と思っていたその素材が実は 12 色の粘土であること
に使っているうちダンダン気づきました。だってグニャ
グニャするんだもん。バンコク到着後すぐ SCC 近くの
セブンイレブンで購入したとき、「Clay…」の文字と余
りに鮮やかな 12 色に惑わされてクレパスだと思い込んで
いたのであった。生涯最初で最後の、粘土での描画。
マイペンライ。



SCC で朝食のとき、我が家と同じクロネコ発見。うちのは内弁慶の平和主義者（ケンカしてケガする箇所が常にお尻であることから分かる）だが、ここのは犬にケンカを売っていた。タイのクロネコ恐るべし。



主日礼拝。自分のは課題多し。反省。
(BJCC の CS で)

原先生の説教は、相変わらずの挑戦的・破壊的パワー充分。これはしかし、長年の信頼関係あってこそそのものと、後でお話して納得。

礼拝の後、BJCC の方々が日本のカレーライスをご用意して下さっていて、愛餐のひとつときにあずかせて頂く。たまたま JOCS の櫛戸先生がおいでで、

少しお話をさせて頂けた。あと、M さんという女性と思いの外じっくりとお話しできたことも恵みであった。タイで独立して仕事を営まれているご主人と共にある人生のご苦労を伺いつつ、しかし何か突き抜けた明るさをお持ちであること、そのベースに信仰があることを感得して、励まされる思いであった。互いに祈りあうことを約して別れた。

午後、9月3日（確か）の交流会の催し物の練習を約1時間半。金子さんの豊富なアイデアに、中年はなかなかついてゆけないが、何とか半分くらい振り付けを固めることができた。

夕方、荷作りして集合。夜行寝台列車チェンマイ行に乗るため、バンコク中央駅へ。事前ToStrayki（部分）決行中ながら、我々のは走ると聞いていたので安心して行ったが、駅に着くと、走りません、とのこと！「仕方ないね」と日本語の上手い駅員さんとしぼし雑談。



原先生は川口さんと夜行バスのチケットを求めに行ってお下さる。払い戻し額とほぼ同額でバスチケットが確保でき、夜8時に出発。夜中12時頃、ドライブインでおかゆを食べたが、みんな寝ぼけて何食ってるのか分からない感じでした。

今日はこれでおしまい。

9月1日(月) めぐみ かねこ

前日のストライキのおかげで夢の夜行列車が夜行バスに・・・

まあ、これもありだv(^0^)とか思いつつ、前の席のやたらテンション高い欧米人が倒す背もたれに苦しむこと、およそ10時間・・・。原先生の「着きました」で目覚めとまどっていると、原先生と遠藤さんの背中が遠ざかり、ドアが閉まり、バスは出発=3.....(@_@)!!!!!!???まさかの別行動!?(汗)

なにがなんだか分からずアタフタする残る4人メンバー。バスがラストステーションに着き、更にCONFUSED(?_?)な4人・・・。

⇒無事に合流しました(^_^)vさすが、アチャンハラ。



気持ちと体を休ませ、ドイステープへ。いやー。キンキラキンにさりげな・・・ある。でも、景色は雄大な☆☆なんだかタイにいるんだと実感。

その後、ナイトバザールへ。

!!!☆そんなサプライズ!!!

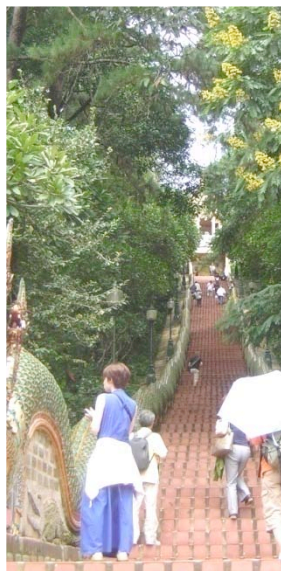
☆皆サンいつの間に・・・いや×2でも、本当に感謝・感激・です。改めて、ありがとうございました☆一生の思い出ですよ(TOT)カードまで・・・本当なんて言うか・・・皆サンすき☆ー

その後、お買いもの一◇いっぱい買った。値切った!!
たのひかった(☆0☆)



9月1日(月) もりた

昼食後→リンテオにて出発！約25分の山道グルグル後、ドイ・ステープ到着。かと思いきやあ……。ドーンっと目の前に階段が出現。皆、若者ということで(苦笑)ロー



プウェイを使わず徒歩でGO! いざ、と昇るが、昇れど昇れどGOALは見えず(T_T)・・・その後、1番ノリの最もお若い原先生を先頭に頂上に到着。頂上に辿りつくと、キラキラ仏像達が頑張りを褒めてくれてるよう。仏像を拝見していると気がついた点が、



タイの仏像は日本の仏像と顔つきは似ているが、手の向き(印)が違っていた。日本では、救いを求める人は皆迎えるという意味で手のひらを人々にむけているのだが、タイでは手の甲を見せていた。どういう意味か帰国後調べなくては・・・

ドイ・ステープから見るチェンマイの市街地は、バンコクと違い新鮮だった。バンコクでは見られなかった山々で街は囲まれており緑が多く、空気が澄んでいた。高い建物も少なく街全体が見渡すことができた。素敵な景色



に後ろ髪を引かれつつ、下山。

ナイトバザール待ちでcafeでお茶。

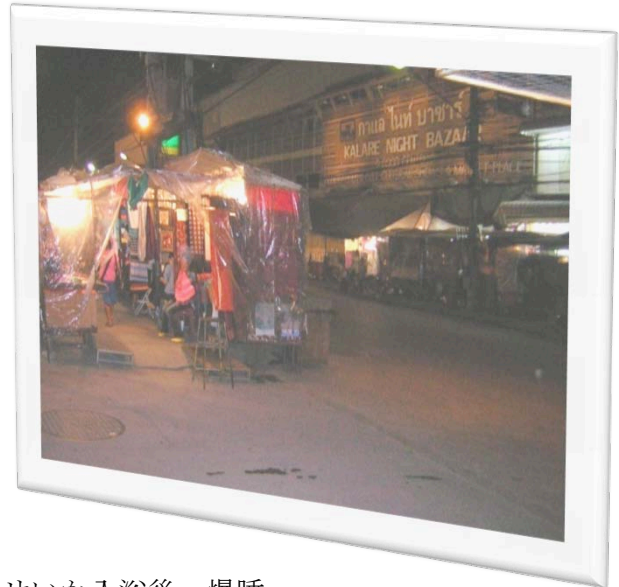
そこで、そこで、「金子愛ちゃん birthday」をsurpriseで祝う。とても感動してくれて、



こちらも感動。楽しく実りある1年を過ごしてねー♪ 暗くなりはじめたところで、ナイトバザール探索。右左後前どこを見て

も店店店……。いったん商品を購入しだすと、購買意欲 UP↑と共に、最初は躊躇していた値切り力も UP↑↑この能力は帰国後も使えるかしら (笑)

そんなこんなで、朝からイベントもあったせいか入浴後、爆睡 zzz



後日談一翌日、ドイ・ステープの後遺症で筋肉痛発症。

9月2日(火) いぐちさとこ

- ・ 7:15 朝食 (チェンマイ YMCA にて)
- ・ 8:00 シロアムバイブルスクールへ (礼拝・見学・昼食)
- ・ 1:30 S.Kalayanee 氏から「イメージ・アジア活動」の話を聞く (YMCA にて)
- ・ 4:30 MCD へ移動
- ・ 5:00 夕食 (学食)
- ・ 7:30 タベの礼拝 (男女別学生礼拝)

☆夕拝後、MCD 学食にて歓談… (学生自治会長?の女性と一緒に買出しし、おやついっぱいのおもてなし! ありがとう♪)



きょうは、早朝より濃厚な START である。昨夜、YMCA に到着されたヨンセイ大学のソ・ジョンミン教授と川西教会のイ・サンギョン牧師と合流し、まず朝食を共にする。大至急で食べ終えないと、シロアムバイブルスクールの礼拝に間に合わなくなる!! 私たちは、熱々の粥を流し込むように済ませた。

あー、口の中はベロベロ… だけど、美味しい♪ 中華？タイ？ 粥は大好物(*^^)v

YMCA まで迎えに来て下さった シロアムバイブルスクールの大里牧師の案内で、無事に礼拝に参加することができた。

ここ、カレン族のスクールでの礼拝は、実にすばらしかった！

讚美歌を歌う学生たちの声が、と

てもキレイ♪ 私は鳥肌が立ち、目頭が熱くなった…

礼拝はいつも学生たちで守られ、また、食事メニューから調理と、全てを学生たちが準備しているという。



食堂で学生たちと一緒に昼食を頂いた。

私は、男子学生3人と大里牧師とお連れ合いのエミさんと共にお料理を食べながら、私の下手な英語で話しかけると… シャイな彼らは恥ずかしそうにしながらも会話にのってくれた！ とうとう最後には、私の年齢に対して「そんな年には見えません。30才ぐらいに見えます。」～ありがとう♪ 御世辞でもその気持ちがうれしいよ!(^^)!

大里牧師：「自分（カレン族）たちの教会を作り上げてほしい。つまり、宣教師から押しつけられるのではなく、カレン族の自らの信仰を得て欲しい。だから、自分は押しつけるような宣教ではなく、自分で気づいてくれるようにと、気づきの授業をしています。」

大里牧師のこの言葉に、私は感動！



近い将来、学生たちは、自らの気づきでカレンの教会活動に関わっていることだろう☆
午後、YMCAにて、原先生の友人である S.Kalayanee 氏をお迎えし、彼の活動についてお話をして頂いた。そして、彼が作成した DVD ドキュメンタリーを見せて頂く。難民の人々の生々しい現実。「人権はどこに？ 平和はどこに？」と、映像が訴えている！
私たちが住む日本は、難民の人たちを受け入れていない。だから、海の向こうの出来事と、どこか他所事のように見て来たことを自覚し、心が痛い。私は、実際に活動されている方から、直接話を聞くのは初めてである。貴重な体験であった。

～このような人がいて、私のような者もいる～

「私は、いったいどうすればよいのだろうか…」

☆どうか、神様！地球上の全ての人々に平安を！！

9月2日（火） 大川大地（キース）

今日は、とても濃ゆい一日でした。

朝のシロアムバイブルスクール、
昼の Images Asia のサムさんによる
レクチャーと難民の DVD・・・。
全て、とっても濃ゆい内容でした。



心に残った大里英二先生の一言。

『カレン人はカレン人の神学を形成しなければならない。しかし、宣教師がそれを教えたのでは、歴史の過ちを繰り返すだけだ。それは、カレン人自身が気づくしかない。』



夕方、パヤップ大学の MCD へ。

完全に英語とタイ語のみの世界である。

でも、意外にイケるじゃん！！ オレ！！（笑）

夜、同い年（18才）のパムが、街のセブンイレブンへ連れて行ってくれた。

その後、彼の車（！）で、彼の出身高校を見学。